令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　富野　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

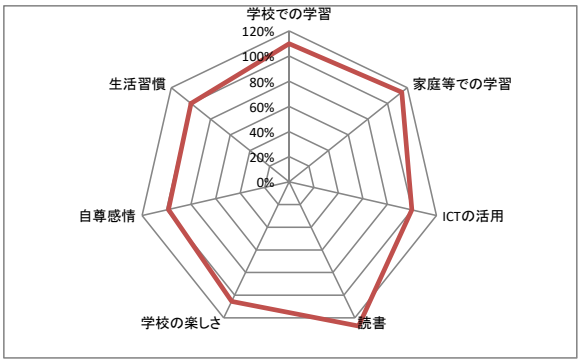
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。 「書くこと」「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」についての正答率が、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を若干下回っている。 自分の考えや解き方を説明する「記述式」の問題の正答率が、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題の正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。 観察や実験を基に、自分の考えをもったり、その内容を記述したりする問題の正答率が、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に，問題を解決するまでの道筋を構想し，自分の考えをもつ問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校での学習」、「生活習慣」、「学校の楽しさ」、「読書」、「家庭等での学習」と、全ての領域において全国の平均値を上回っている。
・家で学校の宿題をしたり、自分で計画を立てて勉強したりするなど、家庭学習の習慣が身についてきている。しかし、家庭学習の時間については、全国の平均値を下回っているので、継続的な取組と宿題の内容について見直しをする必要がある。
・普段から読書をしている児童が増えているので、今後も継続させたい。
・「自分はよいところがある。」の質問に対して、全国の平均値より若干下回っている。児童同士が助け合ったり、協力したりできる行事や学級活動を計画的に取り組み、自己肯定感や有用感を高める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○全教科の授業の中で、「話し合う活動」や「振り返る活動」を取り入れ、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
○全教職員で「わかる授業」「楽しい授業」の創造に取り組み、子ども達の学習意欲を高め、主体的な学習ができるようにする。
○国語の漢字学習や算数の練習問題等、とみのっ子タイムに補充学習の内容を充実させていくことで、児童の基礎的な学力の定着を図る。
○より「わかった」「できた」を実感することができるように、ICT機器の有効的な活用方法を研究していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。
○家庭学習の内容を改善していくために、家庭学習の計画を子ども達の自主性に任せるのではなく、教師が意図的に既習内容の復習や苦手なところの克服につながるような学習例を示すようにする。
○教室内や校内に自主学習の仕方やノートモデルを紹介するコーナーを設置し、児童の家庭学習への意識を高めていく。